

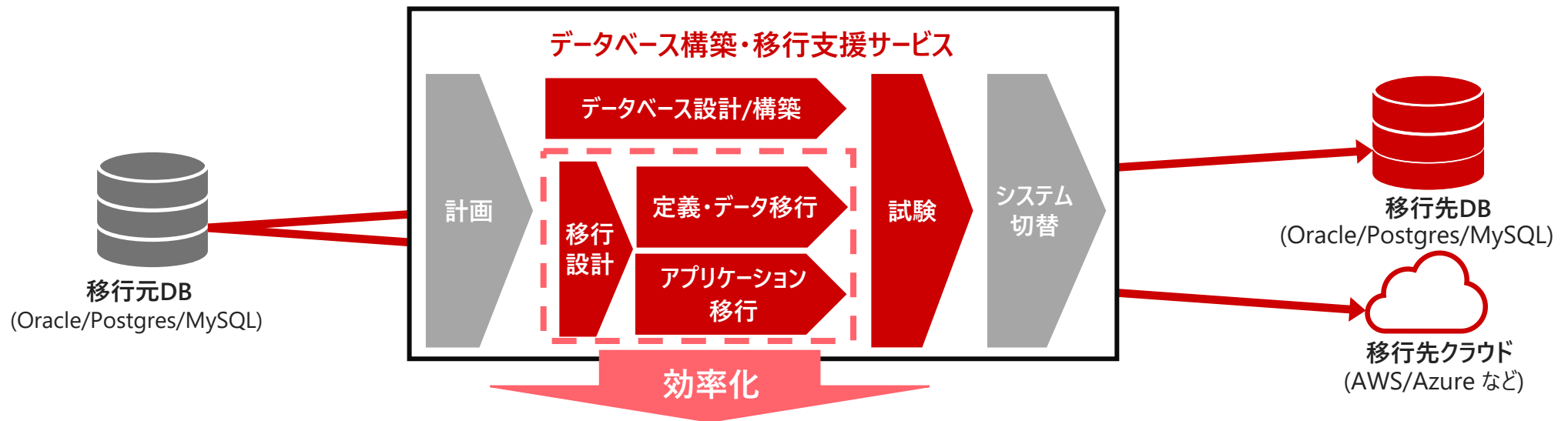
HITACHI

データベース構築・移行支援サービス

システム移行に伴うデータベース移行対応およびインフラ・データベースの構築を支援

データベース移行によるコスト最適化のポイントは、移行作業に関する費用の低減

データベースの移行は、コスト最適化をはじめとしたさまざまな効果が期待される一方で、移行作業のコストが課題になります。当社では、データベース移行支援ツールを活用することで、効率的かつ正確な移行が支援可能です。移行に伴う、データベースの設計構築、移行設計、定義・データ・アプリケーション移行、試験までトータルで支援します。



ツール活用により移行作業の効率化を実現

(使用ツール実績) SI Object Browser、ora2pg など

現データベースを使い続ける運用費 > 移行後の運用費 + 移行作業費

■データベース移行の目的と効果

データベース移行の目的	主な効果	推奨アクション
コスト最適化	ライセンス・保守費用削減	OSS-DBやクラウドデータベースへの移行、運用効率化
ベンダーロック回避	ベンダー選定の制限回避	OSS採用・標準技術への移行
保守限界	ライセンス高騰・サポート終了対応	OSSやクラウドデータベースへの移行
業務変化	データ量増加・新規アプリケーション導入対応	スキーマ再設計・分散データベース
災害対策	DR構成(*2)・BCP強化(*3)	クラウドDR・マルチリージョン
DX戦略	クラウド化・分析基盤連携	クラウドDB・CI/CD統合(*1)

*1) CI/CD：Continuous Integration / Continuous Delivery統合(ソフトウェア開発におけるコードの統合・テスト・デプロイを自動化)

*2) DR：Disaster Recovery構成(災害時に冗長構成を活用し、システムを迅速に復旧する構成)

*3) BCP：Business Continuity Plan強化(災害や障害発生時に、企業の重要業務を継続するための総合的な計画)

■データベース移行工程におけるツール活用内容

移行工程	ツール活用内容
移行設計	現行データベースの構造をリバースエンジニアリングでER図(*4)作成
定義移行	ER図からDDL生成(*5)によるテーブル・ビュー定義の移行、コメントの設定
データ移行	テストデータ生成機能による移行前検証
アプリケーション移行	関連テーブル・ビューの構造把握により、Functionの移植先データベース構造を明確化

*4) ER：Entity Relationship Diagram図(データベースの構造を視覚化し、テーブル間の関係を明確化するための図)

*5) DDL：Data Definition Language生成(ER図を基にデータベースの構造を定義・変更するためのSQL文を生成)

クラウドエンジニアリングサービスと組み合わせることで、移行先のインフラおよびデータベースの設計・構築までシームレスに対応が可能です。

※記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。 ※ちらしに記載の仕様、外観は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。

※印刷物につき、実際の製品・画像の色調と異なる場合があります。

※本製品の開発・製造は、原則として日本国内での使用を想定して実施しています。本製品を輸出する際は、輸出者の責任において、輸出関連法令等を遵守し、必要な手続きを行ってください。

海外の法令および規則への適合については当社はなんらの保証を行うものではありません。なお、ご不明な場合は、販売店へお問い合わせください。

株式会社 日立情報通信エンジニアリング

神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目3番3号クイーンズタワーB 22階 〒220-6122
www.hitachi-ite.co.jp/

発行年月：2025.12
©Hitachi Information & Telecommunication Engineering, Ltd. 2025. All rights reserved